

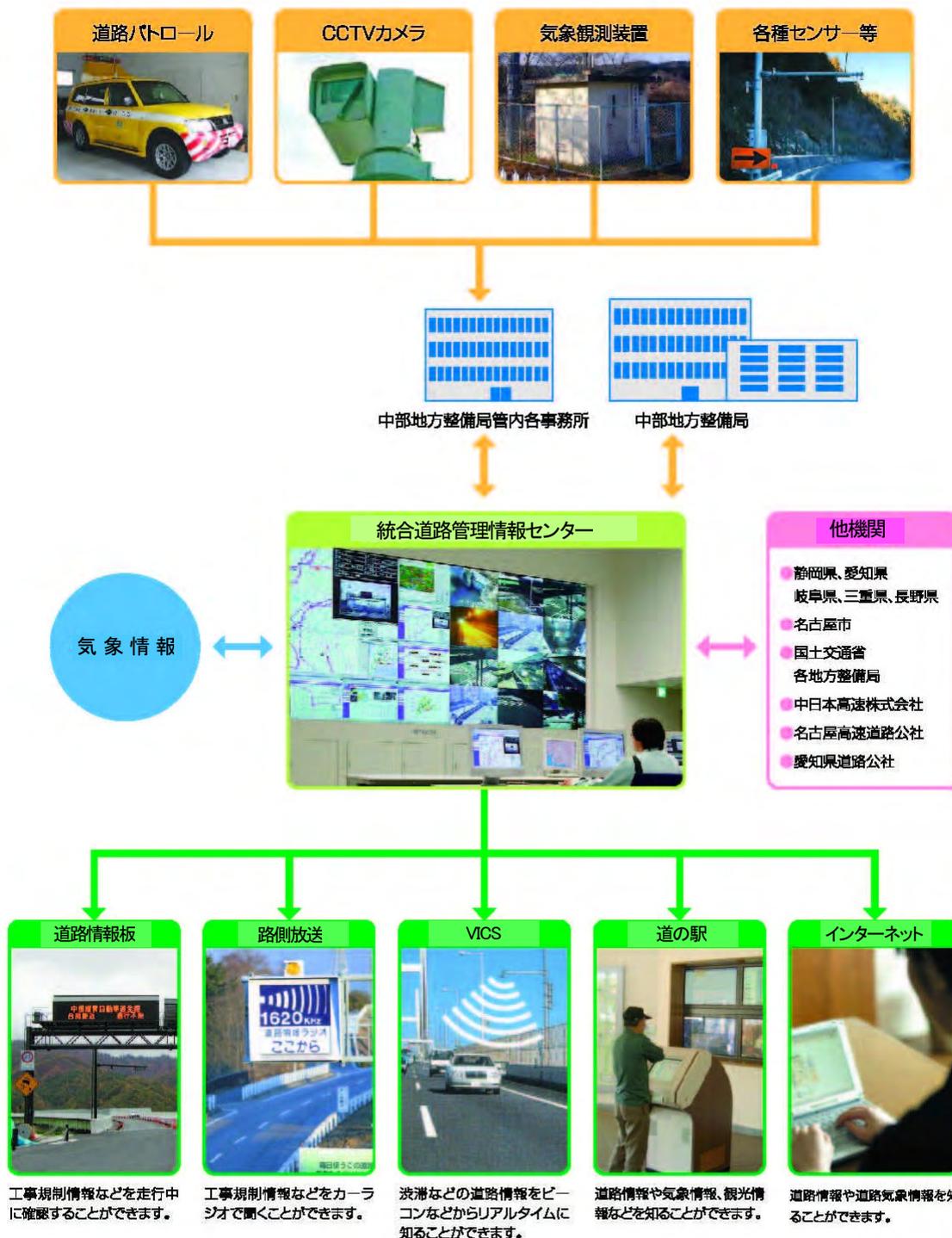
## 4. 安全安心

### ⑦道路状況の情報収集及び提供

#### 1) 情報ネットワーク

名古屋国道事務所では、自営通信回線、センサ等を用いて情報を迅速、的確に収集し提供する情報ネットワークを構築しており、これを用いて雨量・積雪等の道路気象情報や規制情報をオンラインリアルタイムに収集し、道路利用者への確かつ効率的に情報提供を行っています。(道路情報管理業務)これまで、収集した情報を名古屋国道事務所庁舎内に設置した道路情報センターに集約し、道路情報管理業務を行ってきましたが、道路管理の一元化、コスト縮減のために、中部地方整備局管内の道路情報管理業務を集約するための統合道路管理情報センター(名古屋市千種区)が平成16年3月に完成、4月より名古屋国道事務所の道路情報管理業務を統合道路管理情報センターに移行しました。

現在、中部地方整備局管内の道路情報管理業務の集約に向けて様々な検討が行われています。



## 4. 安全安心

### ⑧建設機械

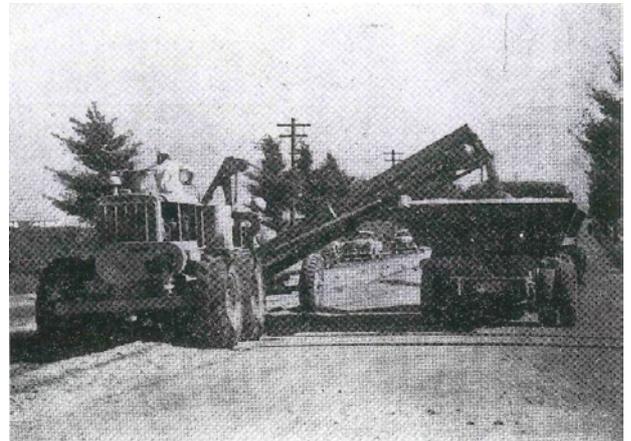
#### 1) 道路管理を円滑に推進するため各種維持・除雪用機械を整備

昭和33年(1958年)に国道が直轄管理となり、これらに必要な道路維持用機械を導入、維持修繕作業を実施しています。直轄管理当初は直営による舗装工事等を行うため、主に建設用建設機械を保有していました。昭和40年代、舗装工事等は徐々に請負形式に切り替えていったため、道路管理主体の維持用車両(清掃車等)の保有が主となっていきました。昭和60年代には冬期の円滑な交通を確保するため、除雪目的の専用車両も導入していきました。平成になると、環境に配慮した車両(CNG圧縮天然ガスを利用する車両)を導入し道路環境の改善に努めています。

##### a) 建設用建設機械(直轄管理～昭和30年代)

道路を造るため建設用建設機械を導入し、舗装工事等を直営にて実施していました。

舗装工事施工状況



工事に必要な舗装用機械(グレーダー、ドーザー、ローラー、ダンプトラック)を保有していました。

##### b) 維持用建設機械(昭和40年代～)

道路管理(道路の異常や落下物の発見・清掃等)を目的とした維持用建設機械を導入し、工事により完成した道路の管理を実施しています。

道路パトロール



道路パトロールカー

日常の道路管理は、道路パトロールカーで巡視を行います。

道路清掃作業



路面清掃車(3輪)

埃が舞い上がるのを防ぐため、散水車とペアで作業します。

前列:散水車(路面を散水) 2列目:路面清掃車(3輪)

3列目:ダンプトラック(塵埃輸送)

c) 雪寒用機械（凍結防止剤散布車）（昭和50年代～現代）

路面凍結により自動車がスリップしないよう薬剤を散布します。



砂散布機による薬剤散布作業（昭和50年代）



自走式散布車による薬剤散布作業（昭和60年代～現代）

d) 維持用建設機械（平成～）

大気汚染・地球温暖化は地球規模の環境問題です。名古屋国道では中部地方整備局でいち早く低公害型道路維持車両（CNG：天然ガス自動車）を導入しました。（平成12年度～）



維持用建設機械（CNG（圧縮天然ガス）利用車両）



道路パトロールカー（ガソリン・CNGバイフューエル車両）

e) 新型清掃車の導入（平成24年度）

従来複数車両で実施していた道路側溝の清掃作業を1台集約し作業の効率化を目的に平成24年度に導入しました。



維持・除雪・災害対策用機械保有一覧

名古屋国道事務所（平成24年3月現在）

機種	台数
道路パトロールカー	17
路面清掃車	3
散水車	3
排水管清掃車(水循環式)	1
橋梁点検車	1
照明車	1
凍結防止剤散布車	10
凍結防止剤散布機	9